

MRI 専用造影剤についての説明書

造影 MRI 検査では、MRI 専用造影剤（ガドリニウム製剤）という薬剤を注射します。
この造影剤は、病気の有無や病気の性質、範囲といったことをより正確に評価するために用いられます。
造影剤を使用するかどうか（造影検査の必要性）は、主治医が判断いたします。

造影剤を使用すると、まれに副作用が起きることがあり、ぜんそくやアレルギー体質の方でこの確率は高くなります。

主な造影剤の副作用には次のようなものがあります。

1. 軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭（のど）違和感、動悸、頭痛、発疹など。
造影剤投与直後に現れることが多いですが、検査の1~2日後に発疹が現れることもあります。
これらは治療を要さないか、1~2回の投薬や注射で回復するものです。
このような副作用の起こる確率は100人につき1~2人（約1~2%）です。

2. 重い副作用

呼吸困難、ショック、意識障害、血圧低下、腎性全身性線維症など。
このような副作用は、通常治療が必要となり後遺症が残る可能性もあります。
このため、入院や手術が必要になることもあります。
このような副作用の起こる確率は、10,000人につき1人（約0.01%）です。
また、非常にまれですが、病状や体質により100万人につき1人（0.0001%）の確率で死亡する可能性があります。

3. 造影剤の血管外への漏れ

急速に造影剤を注入するため、血管外に造影剤が漏れる場合があります。
この場合、注射部位が腫れて痛みを伴うこともありますが、基本的には時間が経てば吸収されます。
ごくまれですが、漏れた量が非常に多い場合には別の処置が必要になることもあります。

◆検査前4時間は絶食してください。

ただし水分の制限はありません。十分な水分補給（無糖：水・お茶など）を行って下さい。

◆造影剤投与後異常を感じたら、ためらわずすぐにお知らせ下さい。

◆現在授乳中の方は、造影 MRI については検査後24時間、MRCPでボースデルを飲用される場合は検査後48時間授乳を避けてください。

◆造影 MRI 問診表・同意書は検査予約時に必ず記入していただき、検査当日に当院へお持ちください。

（安全のため、記載内容によっては造影検査を中止させていただく場合がございます。）

◆検査当日になって体調変化などの理由で、患者さんからの申し出により造影検査を中止することもできます。

このようなときは検査担当者にお申し出下さい。

◆当院では、検査中スタッフが患者さんの様子を観察しており、万一の副作用に対しても素早く対応出来る体制を整え、安全に検査を行っています。

◆その他、分からないことや気になることがあれば、検査担当者にお申し出下さい。